

褥瘡患者情報提供書と皮膚欠損創傷被覆材一覧表を利用した
処方薬剤の適正評価と処方提案

そうごう薬局 宝塚売布店
馬場 理子

【目的】

高齢化に伴い在宅患者が増える中、2014年の調剤報酬改定に伴い、院外処方にて「皮膚欠損創傷被覆材」の供給が可能となった。しかし、保険薬局では、患者の褥瘡状態が把握できず、グレードに合った被覆材を判断できないなどの課題がある。また、知識不足により医療機関からの褥瘡に関する問い合わせに対し、迅速に対応できていないケースもある。そこで褥瘡治療で使用する薬剤を効能効果ごとに分類した一覧表を作成し、医療機関と褥瘡患者の情報を共有した上で、褥瘡の状態に適した薬剤の選択や処方提案を行ったので報告する。

【方法】 褥瘡評価スケール(日本褥瘡学会：DESIGN-R)を組み込んだ患者情報提供書を作成し、医師に記載を依頼した。また、皮膚欠損創傷被覆材の効能効果・褥瘡の深さに適合する機能区分や保険適応の有無をまとめた一覧表を作成した。患者情報提供書の情報と一覧表を利用し、褥瘡の状態に適した薬剤の選択を行った後、処方提案を行った。

【結果】 これまで在宅褥瘡患者 5名に対して薬剤師の褥瘡評価がないまま、薬剤や皮膚欠損創傷被覆剤を使用していたが、5名中2名に対して情報提供書を基に薬剤師が褥瘡状態を評価し、一覧表を基に適切な薬剤や皮膚欠損創傷被覆剤の処方提案できた。

【考察】 今回作成した情報提供書・一覧表を利用し、医師との連携・薬剤師の視点から適切な薬剤の選択・提案することで、患者の褥瘡状態の改善に寄与できた。